



333 East 47th Street
New York, NY 10017
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>

配信日：2022年7月6日

プレス担当：

マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)

アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー（JS）ギャラリー 「宮本和子: 挑む線」 展 関連プログラムのお知らせ



Photo Credit: Photography by Jacob Burkhardt

Artwork Credit: Yoshiko Chuma in Kazuko Miyamoto: A Girl on Trail Dinosaur, 1979 © Kazuko Miyamoto. Courtesy of the artist and EXILE, Vienna.

「宮本和子 シンポジウム」

Kazuko Miyamoto: A Symposium

2022年7月9日(土)午後2時～5時

「ユートピアを宮本和子に向けて」

中馬芳子氏によるパフォーマンス

Tipping Utopia Toward Kazuko Miyamoto

2022年7月16日(土) 全2回 午後2時、5時より

JS は、2022 年 7 月 24 日まで開催される「宮本和子: 挑む線」展に合わせ、関連プログラムとしてシンポジウムとパフォーマンスを開催いたします。1942 年東京生まれの宮本和子は、1964 年より活動の拠点をニューヨークへと移し、ローワー・イーストサイドに在住し制作を続けています。両プログラム共に、ミニマリズム運動に独自の表現法で挑み、貢献をした宮本の美術機関では初めてとなる個展となる本展を記念した関連プログラムとなります。

「宮本和子 シンポジウム」

Kazuko Miyamoto: A Symposium

2022 年 7 月 9 日(土)午後 2 時～5 時

本シンポジウムでは、アーティスト、キュレーター、学者など学際的なメンバーを迎え、過去 50 年にわたる宮本和子氏の革新的な活動について、様々な観点から議論します。芸術におけるフェミニズム、特定の作品の精読、ニューヨーク・アバンギャルド、コラボレーションやコミュニティの役割など、さまざまなトピックについて討論します。クロージング・パネルでは、ショート・プレゼンテーションから浮かび上がったテーマやアイデアを振り返るとともに、現代の問題にも話を広げていきます。

パネリスト

エリーゼ・アルマーニ（講師およびパネリスト・美術史家）、ロクサナ・ファビアス（エグゼクティブディレクター・A.I.R.ギャラリー）、レオン・ランスマイヤー（展示デザイナー、ランズマイヤー社創設者）、バーバラ・シュテーレ（キュレーター・美術史家）、杉浦邦江（アーティスト）が登壇します。

参加無料 ＊[事前登録](#)が必要です。

「ユートピアを宮本和子に向けて」

中馬芳子氏によるパフォーマンス

Tipping Utopia Toward Kazuko Miyamoto

2022 年 7 月 16 日(土) 全 2 回 午後 2 時、5 時より

本ライブパフォーマンスでは、コンセプチュアル・パフォーミング・アーティストでありダンサー、振付家、またスクール・オブ・ハードノックスのディレクターでもある中馬芳子氏が、舞台上と舞台裏、芸術行為の間の境界を取り払い、動きと即興の音楽を融合させたパフォーマンスを披露します。

1979 年、A.I.R.ギャラリーでの宮本和子氏の個展（Yoshiko Chuma in Kazuko Miyamoto: A Girl on Trail Dinosaur）で展示されている、糸を使った作品の中でパフォーマンスを行いました。今回のパフォーマンスで中馬氏は、宮本氏と再度コラボレーションし、JS ギャラリー内 3 部屋を巡回します。また、コントラバス奏者のロバート・ブラック氏、ヴィオラ・ヴァイオリン奏者のジェイソン・カオ・ワング氏、トロンボーン奏者のクリストファー・マッキンタイア氏の 3 人のミュージシャンが協演します。

本展のキュレーションを務めた JS ギャラリー・キュレーターであるティファニー・ランバートは、中馬氏と宮本氏の弦楽器作品の共演を、「今回のプログラムは、複雑で手間のかかるインスタレーションとパフォーマンスを一緒に見ることができる一生に一度の機会となります」と述べています。

＊展覧会の入場料にて参加可能（チケットは[こちら](#)から）

参加者プロフィール

「宮本和子 シンポジウム」 パネリスト

【ロクサナ・ファビアス】

1972 年に米国初の女性アーティスト協同ギャラリーとして設立された A.I.R.ギャラリーのエグゼクティブ・ディレクターあり、バード大学の文化研究センターの教授を務める。

美学、アート、デザイン、テクノロジー、合理主義、フェミニズム理論などに焦点を当てた研究を行う。

【バーバラ・シュテーレ】

美術史家であり、インディペンデント・キュレーター。パリのポンピドゥー・センターに勤務した後、米国に移住。TEDxで「人間の物語としての建築」について講演し、美術、建築、女性の美術史分野への貢献について講演、ロードアイランド・スクール・オブ・デザインで教鞭をとる。

2021年、Zürcher Galleryで「Kazuko Miyamoto in the Sol LeWitt Collection」のキュレーションを担当。今夏、ソル・ルウィット・コレクションに収蔵された宮本和子氏の作品についての書籍の最終仕上げに携わる。

また、同氏はインデペンデントキュレーター・アートアドバイザーであり、ポンピドゥー・センターやチューリッヒ美術館などの美術館に勤務経験を持つ。近代美術、現代美術、建築に関する著作も多く、マックス・ベックマンの作品に関する代表的な論文も発表する。現在はニューヨーク大学およびロードアイランド・スクール・オブ・デザインで教鞭をとる。学問の世界にとどまらず、その洗練された専門知識と分析的センスを活かして、コレクターへのアドバイスや現代アーティストとの共同作業にも取り組む。

【エリーゼ・アルマーニ】

ストーニーブルック大学の美術史・評論学の博士課程に在籍し、学位論文ではマンハッタンのローワー・イーストサイドにおける国際的なアーティスト・ネットワークについて研究する。修士論文として1964年から現在までの宮本和子のニューヨークでの活動を初めて学術的に調査した。大学院評議会フェロー、ミリアム・モーリスゴールドバーガーフェローシップの受賞者であり、2020年から2022年まで美術史大学院生協会の代表を務める。ミネソタ大学でジェンダー研究の文学士号とアートプラクティスの美術学士号を取得。得た知識を生かし、積極的に独立したキュレーター活動を行い、ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ダラス美術館、ウォーカー・アート・センター、ワイズマン美術館、TANK Shanghai（上海油罐芸術中心）でのプロジェクトに貢献する。

【レオン・ランスマイヤー】

ニューヨークを拠点とするデザイン事務所、ランスマイヤー社の創設者。ロードアイランド・スクール・オブ・デザインを卒業した後、ランスマイヤーの作品は世界中で評価され、サンフランシスコ近代美術館やコーニングガラス美術館のパーマネントコレクションとして収蔵されている。クライアントは、2016/、HAY、ハーマンミラー、ジャパングリイティブ、マハラム、マティアッツィ、SPACE10など。東京を拠点とするコーヒー製品会社「ENTO」の創立メンバー。

ヘルシンキのアールト大学、カリフォルニア美術大学、プラット・インスティテュートで講演を行い、クランブルック・アカデミー・オブ・アートで複数のデザインワークショップを指導。また、ロードアイランド・スクール・オブ・デザインとパーソンズの客員評論家として継続的に活動している。2012年

には、グラハム財団から研究助成を受け、工業デザインとロボット工学の発展的な関係を研究している。

【杉浦邦江】

多様な写真表現を探究しているアーティスト。1967 年、シカゴ美術館付属美術学校（SAIC）で美術学士号を取得。SAIC では、コンセプチュアルな写真家であるケネス・ジョセフソンに師事。1960 年代にカラー写真の実験、1970 年代にアクリル絵の具と写真を組み合わせたキャンバスを制作した後、1980 年代から日用品を使ったフォトグラムの制作を開始。写真と他のメディアとのつながりを追求する一方で、写真の物質性、そしてその物質性がどのように抽象化されるのかに関心を寄せる。作品は、デンバー美術館、ボストン美術館、ニューヨーク近代美術館（MOMA）、東京都写真美術館のパーマネント・コレクションに所蔵されている。

「ユートピアを宮本和子に向けて」アーティスト

【中馬芳子】

コンセプチュアル・アーティスト、振付家、スクール・オブ・ハードノックスの芸術監督。1980 年にカンパニーを設立して以来、ニューヨークのポストモダンダンスシーンに火をつけ、ダンスでも演劇でも映画でもない、既成概念にとらわれない示唆に富む作品を一貫して作り続ける。アメリカ、東欧、中欧、アジア、中東、南米など 40 カ国以上で、ストリートパフォーマンスから演劇、ダンスコンサート、大規模なショーまで、2,000 人以上のコラボレーターと共に公演を行う。スクール・オブ・ハードノックスに関わった著名な国際的パフォーマーには、ステファン・ペトロニオ、ヴィッキー・シック、ジョディ・メルニック、デヴィッド・ザンブラノ、サシャ・ヴァルツ、サラ・マイケルソン、DD ドーヴィリエ、アリソン・グリーン、ミリアム・パーカー、サイモン・クールシュヴェル、ジョン・ジャスパーズ、デイヴィッド・ドーフマン等。

【ロバート・ブラック】

コントラバス奏者。コントラバスのために今までにない音楽を創作し、あらゆる分野のアーティストとコラボレーションしながら、世界中をツアーする。バン・オン・ア・キャン・オールスターズのベーシストとして、創設時から参加。現在のプロジェクトには、毎月ストリーミングでベースを演奏するシリーズ「First Fridays with Robert Black」、サウンドアーティストのブライアン・ハウスとスー・ファンとの「人新世」を反映した 10 チャンネルのオーディオ／ビデオベースのインスタレーション、作曲家イヴ・ベグラリアンとの 24 本のベースのための屋外環境作品など。あらゆる形態の現代音楽の芸術活動を支援することを使命とする非営利団体「ロバート・ブラック財団トラスト」を設立し、その運営に携わる。

【ジェイソン・カオ・ワング】

ヴァイオリン／ヴィオラ奏者。最新作の『The Human Rites Trio』と『Conjure』、そして2015年の作品は批評家からも絶賛される。また2020年、2019年、2018年、2013年、そして2012年のエル・イントルソ国際ジャズ批評家投票でバイオリン／ヴィオラ部門で1位に選ばれる。2012年のダウンビート・ジャズ批評家投票ではヴァイオリン部門のライジング・スターに選出。ウィリアム・パーカー、アンソニー・ブラクストン、ブッチ・モリス、レジー・ワークマン、ポーリン・オリヴェロスなど、多くのアーティストと共演。

【クリストファー・マッキンタイア】

トロンボーンと電子楽器を使って、日々変わりゆくニューヨークの音楽コミュニティの中で、即興演奏から解釈まで、様々な音楽的文脈で演奏する。ブルックリンのTILT Brassのディレクター兼共同設立者であり、Either/Or Ensembleのプログラムをキュレーションし、ニュースchoolのマネス音楽院でコンテンポラリー金管楽器を教え、TILT, Either/Or, SEM, Talea Ensemblesなどのグループで頻繁に演奏している。2006年以来、作曲家ジュリアス・イーストマンの音楽の復興に幅広く貢献し、楽譜の転写や作成などを行う。また様々なメディアや楽器のために独自の音楽を作曲し、ビジュアル・アーティスト（特にロバート・スミッソン）の作品から示唆される創造的なシステムを採用している。

展覧会リスティング・インフォメーション

会場：	ジャパン・ソサエティー（JS）ギャラリー 333 East 47th Street (Between First and Second Avenues) New York, NY 10017
展示期間：	2022年4月29日(金)～2022年7月24日(日)
開館時間：	木曜日～日曜日：午後2時～午後6時
JS会員限定開館時間：	木曜日～日曜日：正午～午後2時
入場料：	一般12ドル、シニア・学生10ドル JS会員・16歳以下・障がい者および付添者 無料
チケット購入：	ボックスオフィス 212-715-1258

ご来館の皆様の安全と安心のためガイドラインを[こちら](#)よりご確認お願いいたします。

＊「宮本和子: 挑む線」展は、以下の財団・基金、及び個人より多大なご支援・協賛をいただいております。

Kazuko Miyamoto: To perform a line is supported, in part, by public funds from the New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council.

Japan Society programs are made possible by leadership support from Shiseido Americas and The Ford Foundation. Exhibitions and Arts & Culture Lecture Programs at Japan Society are made possible, in part, by the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund; the Mary Griggs Burke Endowment Fund established by the Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation; The Masako Mera and Koichi Mera, PhD Fund for Education and the Arts; Masako H. Shinn; Peggy and Dick Danziger; Raphael and Jane Bernstein; and Friends of the Gallery. Support for Arts & Culture Lecture Programs is provided, in part, by the Sandy Heck Lecture Fund. Transportation assistance is provided by Japan Airlines, the exclusive Japanese airline sponsor for Japan Society gallery exhibitions.

＊ ＊ ＊

プレスプレビュー・取材申し込み

プレスプレビュー・取材をご希望の方は、プレス担当：マリカ/ロッドマンまでEメールで (EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org) お申し込み下さい。

＊ ＊ ＊

JS ギャラリーについて

当ギャラリーは、1971年の設立以来、日本の芸術と文化を世界に向けて発信し続けている米国でも有数の施設です。当ギャラリーは、画期的な展覧会や関連プログラムを通じて、世界の芸術遺産と言える日本文化に対する幅広い理解と評価を深め、日本がアジア、米国、ラテンアメリカ、ヨーロッパと共有する芸術的な相互関係を探り、古典から現代までの多様性に富む日本の美術を紹介しています。

JSについて

JSは、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々につなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教

育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されている JS 本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907 年以来、JS では「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエイターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org をご覧ください。

JS は今年、ニューヨークのランドマークである本館設立 50 周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JS が文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook：facebook.com/japansociety

Instagram：[@japansociety](https://www.instagram.com/japansociety) and #japansociety

Twitter：[@japansociety](https://twitter.com/japansociety)（英語）／ [@js_desu](https://twitter.com/js_desu)

その他、詳しい情報は弊社ウェブサイト <http://www.japansociety.org> をご参照ください。

住所 333 East 47th Street (1Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017

最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 / ウェブサイト

www.japansociety.org

###